

●世界の主な地震

平成 25 年（2013 年）3 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

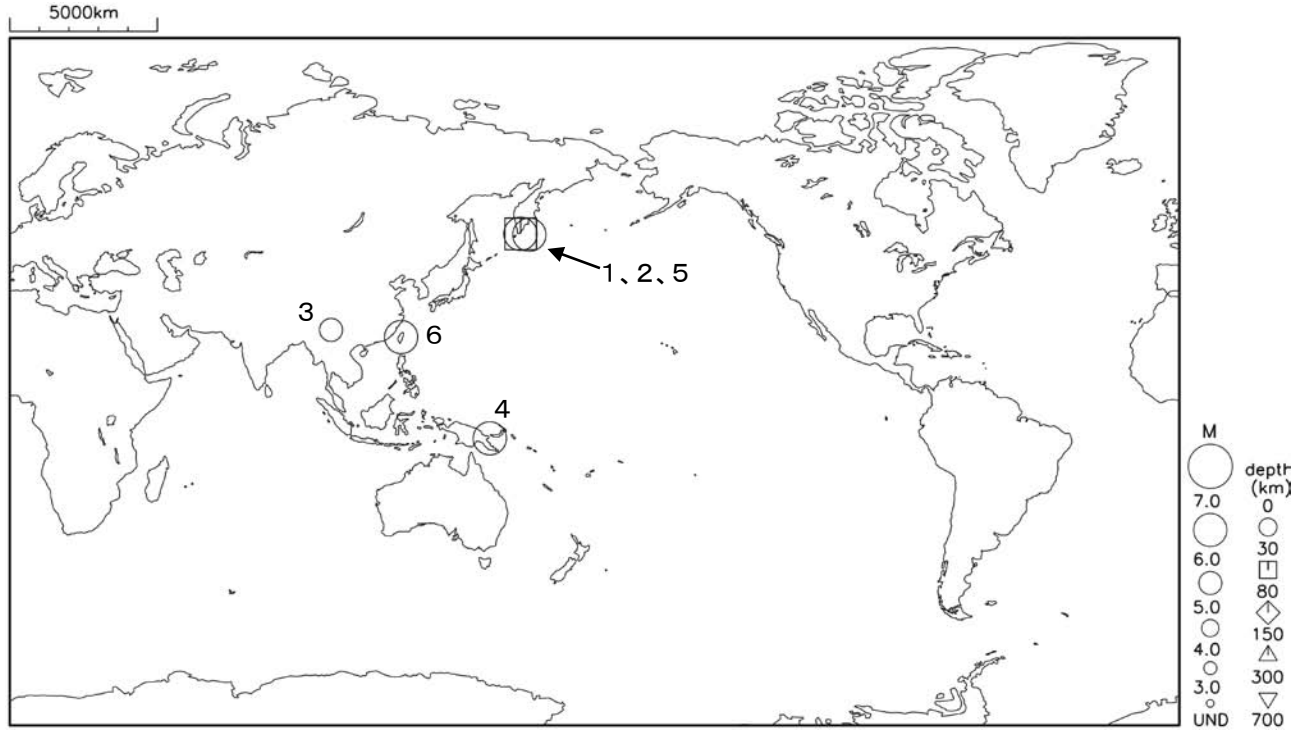


図 1 平成 25 年（2013 年）3 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

*：震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。
**：数字は、表 1 の番号に対応する。
***：マグニチュードは表 1 の mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）、Mw（モーメントマグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 平成 25 年（2013 年）3 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	印 洋	遠 地
1	03月01日21時53分	N50° 56.2'	E157° 30.6'	41			6.4	千島列島				
2	03月01日22時20分	N50° 56.9'	E157° 26.8'	29			6.5	千島列島		○		
3	03月03日14時41分	N25° 58.0'	E 99° 48.1'	8	5.5	5.1	5.2	中国、雲南省	負傷者33人、家屋崩壊700棟など			
4	03月11日07時51分	S 6° 39.1'	E148° 09.3'	29			6.5	パプアニューギニア、 ニューブリテン		○		
5	03月24日13時18分	N50° 43.7'	E160° 09.6'	15	6.1	5.5		千島列島東方				
6	03月27日11時03分	N23° 53.6'	E121° 08.4'	9		(6.1)	(6.0)	台湾				

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（平成 25 年 4 月 2 日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード（Ms の欄に括弧を付して記載）は気象庁に、被害状況は総務省消防庁に、Mw の欄に括弧つきで記されている地震のモーメントマグニチュードは気象庁による。
・震源時は日本時間【日本時間＝協定世界時＋9 時間】である。
・「北西」、「印洋」各欄の○印はそれぞれ、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）、及び、インド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報（TWI）（地震・火山月報（防災編）2005 年 5 月号参照）を発表したことを表す。
・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

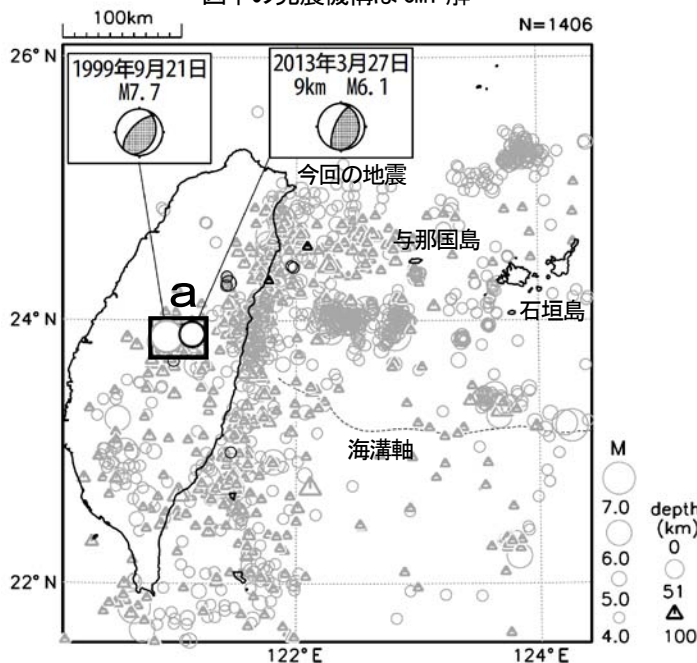
3月27日 台湾付近の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2013年3月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 4.0$)

2013年3月の地震を濃く表示

図中の発震機構はCMT解

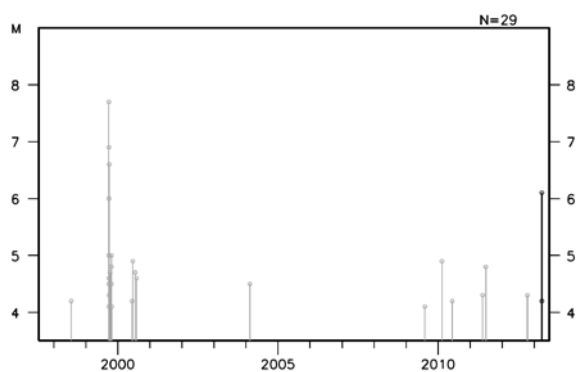


2013年3月27日11時03分に台湾付近（台湾中部）の深さ9kmで $M 6.1$ の地震が発生した。

この地震の発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

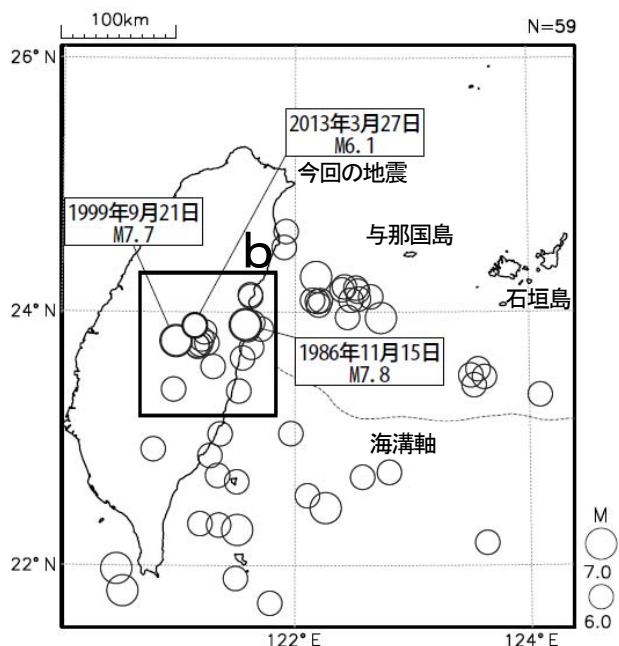
1997年10月以降の活動を見ると、この地震の震央付近（領域a）では、1999年9月21日に $M 7.7$ の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生した。

領域a内のM-T図



震央分布図

(1970年1月1日～2013年3月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 6.0$)



今回の地震の震源要素は気象庁による。
その他の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。

1970年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1986年11月15日に $M 7.8$ の地震（日本国内で最大震度3）が発生し、台湾で死者13人、負傷者45人の被害が生じ、宮古島平良で30cmの津波を観測した。また、上述した1999年の集集地震では、台湾で死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた（共に被害は「宇津の世界被害地震の表」による）。（マグニチュードは米国地質調査所[USGS]による）。

領域b内のM-T図

